

所属：理工学研究科 環境共生系専攻 1年

氏名：藤林 将

派遣期間：2016年2月20日～2016年2月28日

派遣先：インド・ハイデラバード大学

はじめに、今回のプロジェクトを行うにあたり、快く研究室訪問を許可していただいた T. P. Radhakrishnan 教授(以下、TPR 教授)と研究室の学生たちにこの場を借りてお礼を申し上げます。ありがとうございました。私は、2016年2月21日～28日の間、インド南部のハイデラバード大学化学科 TPR 教授の研究室に1週間研究室ホームステイを行いました。1週間の中で、自身の研究ディスカッション、研究室のゼミへの参加、などを行ったので今回報告させていただきます。まずは詳細な日程について示します。

表-1 スケジュール

| | |
|--------|-----------------------------|
| 1-2 日目 | 移動(福岡～タイ、タイ～インド) |
| 3-6 日目 | 研究室ステイ(研究ディスカッション、他研究室訪問など) |
| 7-8 日目 | 移動(福岡～タイ、タイ～インド) |

ハイデラバードに向かうには途中バンコクを経由する必要があり、フライト時間は合計 10 時間程度でした。今回の報告書では、①ハイデラバードの様子、②研究ディスカッション、③他研究室訪問の 3 つに分けて報告させていただきます。

① ハイデラバードの様子

ハイデラバードの気温は平均 35 度程度あり、日本との気温差が顕著に現れていました。また、日本人が持つイメージの通り、インドの主食はカレーであり滞在した 1 週間の間、毎日カレーを食べていました。種類が非常に豊富であり、味に飽きるようなことはありませんでした。図 1 左には、インドのカレーを載せています。写真の中だけでも 5 種類以上のカレーがあります。またインドは非常に車が多く、夜であっても変わりはありません。図 1 中央は夜の街の様子です。日本と同じように、左側通行でありましたが、日本に比べ信号が少ないように感じました。最後に図 1 右は、インドの伝統的な踊りの様子です。統一された動きで年関係なく多くの女性が踊っており、伝統が大切にされているということを感じました。



図1 (左)食事の様子、(中央)ハイデラバード夜の風景、(右)ハイデラバードの伝統的な踊り

② 研究ディスカッション

TPR 教授の研究室のゼミに参加し、15分程度英語で口頭発表を行いました。普段の日本語で行う口頭発表とは、違うことは当たり前ではありますが、伝えることが非常に難しく、自分の英語力不足を痛感しました。またゼミの中で、インド人の学ぶことに対する姿勢が非常に印象的でした。ゼミの中で学会と変わらないような議論を交わし、全員が真剣に取り組んでいました。現地の授業に参加した際にも同様のことを感じ、自分自身の意識の改革を行うことができました。

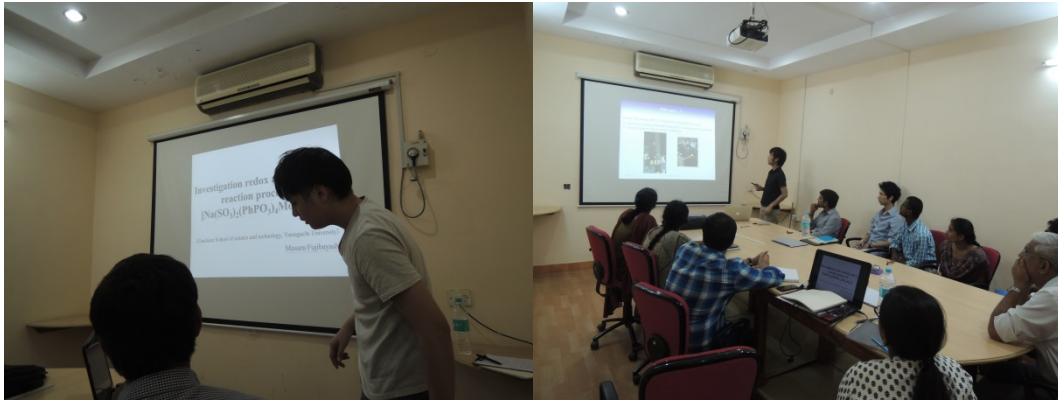


図2 研究ディスカッションの様子

③ 他研究室訪問

今回 TPR 教授の研究室所属の学生をお願いをし、ハイデラバード化学科のすべての研究室を紹介していただきました。他研究室の学生も非常に優しく、自身の研究について説明してくださいました。それぞれの研究室を見て回った感想として、装置や実験環境は日本のほうが良いと感じました。しかし、各研究室の研究成果および論文等は、圧倒的にレベルが高く、ゼミの話のときにも触れましたが、やはり研究姿勢が非常に重要であるということを感じました。

さいごに

今回のプロジェクトを通して、海外の研究生と交流することにより、1週間という短い時間ではありましたが、有意義に過ごすことができました。また、英語力の重要性を再認識し、現在、研究および語学力向上に励んでいます。加えて、準備の重要性を非常に感じました。英語での口頭発表を始め、現地の文化を知ることなど、前準備により今回よりもさらに充実したものになったのではないかと感じます。しかし、普通ではあまり行く機会のないインドに行くことができ、英語での会話や文化の違いなど日本では感じることできないことを学ぶことができました。最後とはなりましたが今回のプロジェクトに参加させていただいたことに、感謝いたします。ありがとうございました。